

策定の理念

ともに学び ともに創る 地域共生・信州
(現行：ともに生きる ともに創る 地域共生・信州)

- ・世代の違い、障がいの有無、文化の違いなど多様な個性を学び合い、尊重し合い、誰もが生き生きと暮らす信州
- ・様々な人や組織の協働により、ライフステージを通じて、その人らしい居場所と出番がある豊かな信州
- ・分野の枠を超え、困りごとに応じて支え合いの輪が重なり合い、ともに支え合う信州

施策の視点

学びの推進

- ・多様な個性を学ぶ
- ・地域での活動を学ぶ
- ・福祉を学ぶ

場づくり

- ・地域の中の多様な居場所
- ・個性を生かせる活動の場
- ・専門的な相談の場

目指す姿

多様な個性への理解が進み、それぞれが安心できる環境がある。



施策体系

I 多様性を尊重し誰もが安心して暮らせる社会づくり

○現状と課題

- ①人権問題への関心の高まり
人権問題へ関心がある人の割合 R2 87.0% (H27 85.4%)
- ②障がいのある人もない人も共に生きる長野県づくり条例施行 (R4)

【施策展開】

- ・多様性の学びと交流の場づくり
- ・安心して暮らせる環境づくり

多様性【高齢者 障がい者 子ども・若者 外国籍 LGBTQ 等】

多様な主体による活動を促進し、個性を生かした活躍の場がある。



II 多様な主体による支えあいのある地域づくり

○現状と課題

- ①コロナ禍における地域支え合い活動の低下
ボランティア行動者数 R3 401千人 (H28601千人)
民生委員1人当たりの活動件数 R2103件 (H27 143件)
- ②単身者の増、高齢化の進行
単身世帯 R2 25.8万世帯 (H2722.4万世帯)
高齢化率 R2 32.0% (H2730.1%)

【施策展開】

- ・地域の支え合い促進のための人材育成
- ・多様な主体の協働による活躍の場づくり
- ・支え合う地域の基盤づくり

地域の基盤【バリアフリー 交通 住宅 災害対策 等】

専門性を生かしながら、多様な機関が協働した相談支援体制がある。



III 複合的な課題への重層的な支援体制づくり

○現状と課題

- ①複合的な課題の認識
・ひきこもり (R1 2,290人)、医療的ケア児 (R1 508人) 等
- ②コロナ禍における生活困窮者の増
生活困窮者自立支援制度の新規相談受付件数 (人口10万人当たり/月)
R3 26.4件 (H28 15.2件)
- ③社会福祉法改正 (R2 重層的支援体制整備事業の創設)

【施策展開】

- ・専門人材の育成、福祉サービスの充実と質の向上
- ・多機関との連携によるワンストップの相談・支援体制づくり

複合的な課題【生活困窮 ひきこもり 医療的ケア 自殺対策 等】